

1. 第1回熊本市景観計画改定専門部会

①専門部会委員 景観計画改定に関し、各分野の専門的で幅広い意見を聴取し、集中的に議論するため、景観計画改定専門部会を設置した。

部門	構成メンバー	部門	構成メンバー
学識（3名）	部会長 星野裕司（熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授）	議会（1名）	吉村健治（市民連合）
	原田和典（崇城大学芸術学部デザイン学科教授）	経済（1名）	森岡大志（上通1・2丁目商店街振興組合専務理事）
	田中智之（熊本大学大学院先端科学研究部(工学系)教授）	行政法（1名）	岩橋浩文（学園大学経済学部リーガルビジネス学科准教授）
		環境（1名）	小島知子（熊本大学大学院先端科学研究部准教授）

②第1回専門部会について 令和4年11月29日（火）開催の第1回専門部会では以下に示す議事について審議し、下記意見が出された。

議事	内容	主な意見
改定の方針とポイント及び改定の構成内容	改定の方針：議会および景観審議会で意見をいただき決定したものを提示。 『熊本城の眺望など、これまで先人が守り育ててきた景観を未来に引き継ぎながら、良好な都市景観を創り育むために改定を行う。具体的には、①策定時と現状の都市景観の変化の比較検証とめざす将来像を設定し、市民と共有するとともに、②計画策定以降の本市関連施策との整合を図る。』 改定のポイント（案）：以下のポイントを提示。 『①景観変化の比較検証と将来像設定 ②本市関連計画等との整合 ③近年策定された景観関係施策の反映及施策の実効性を高める掲載 ④視点場の検証』 改定イメージ：現計画の構成をベースに改定のポイント（案）の反映箇所を提示。	改定のポイントに関し主に以下の意見をいただいた。 ①身近な地域のことも計画に盛り込んでいけると良い。 ②樹木等の緑も景観要素として重要であるため、主体的に計画に記載してもらいたい。 ③広く景観施策を浸透させるためには、規制だけでなく、市民との協働や普及啓発の取組が大事。 ④視点場の検証と設定は、熊本城においては視対象を天守閣に限定せず、城域など広く捉えて考えていくことも重要。
市民アンケート（案）	アンケート設問内容や対象者、実施方法の確認。	
市民ワークショップ(案)	熊本市の景観の現状や今後の景観のあり方について市民意向を把握するために開催するワークショップの内容について確認。1/31、2/22、3/24の計3回。	
報告	内容	
講演会等の開催(案)	講師：伊藤重剛先生（熊本大学名誉教授） 題目：熊本の都市と町並み ～城下町から近代都市へ～ 日時：1月31日（火）14時から 目的：熊本市の町並み変遷を分かりやすく説明いただき、市民の景観意識の醸成を図るとともに、専門部会メンバー、ワークショップ参加者の改定作業への反映を図る。	

2. 今後のスケジュール

